

Forward

次の人への希望のバトンタッチを していきたい — Y・S様(長崎県 60代 男性)

Q 治療までの経緯を教えてください

A 以前の病気の関係で年1回は大学病院へ行っていました。約1年半前に診断後、厳しい病状との説明を受け、すぐに手術をすることになりました。術後の経過もよく、放射線治療、化学療法をしている中で、妻（治療の協力者）が腫瘍治療電場療法の存在をインターネットで見つけ、適用出来るのではないかと主治医にご相談し、速やかに対処して頂き、離島であるゆえにサポート体制をメーカーに確認の上、安心して治療出来ると判断し開始に至りました。

Q 腫瘍治療電場療法開始後の気持ちを教えてください

A 腫瘍治療電場療法治療自体は全く気になっていませんし、必要な治療である事と理解しています。私ではありませんが妻がアレイの貼り替えをするのですが、それに関しては大変かと思いましたね。

Q 腫瘍治療電場療法を開始して1年以上経過していますが、現状はいかがですか？

A アレイを貼っているのですが、痒みはありますが、日常生活では特に問題がありません。私はリュックを使用しています。その方が機器を持っていることを忘れて、庭の手入れが出来ます。

妻：主人は草木を刈り取り、それを燃やしたりするので、それで温度が上がり、アラームがピーピー鳴るんです。止めてほしいんですが、夢中になって作業しています。ただアラームが鳴る事で気が付いてくれるので助かっています。後、ディスクの接着部における軽度の皮膚障害、皮膚がテープに負ける等の症状はあります。乾燥肌対策で保湿剤を使用して皮膚が回復するようにしています。

※高温・多湿的环境下では、汗によってアレイの接着ジェルが溶けやすくなり、剥離、アラーム鳴動、ディスクの頭皮への直接密着による皮膚障害などが発生する恐れがあります。

Q 困っていることはありますか？

A 妻：定期的に大学病院へ行くのですが、可能な限り治療を続けたいのでバッテリーがもう少し長持ちし、コンパクトになってほしいですね※。後、旅行へ行く際は荷物が多くなる事ぐらいでしょうか。この治療を知る前は旅行も出来ない籠の鳥の様な生活になるんじゃないかと落ち込んでいましたが、この治療に出会って、外出したり、友人と笑いあったり出来ています。一度、東京へ行った際、飛行機の欠航と手配ミスで荷物が届かない事があり、治療の継続が出来なくなりかけた事がありますが、その時は航空会社が何とか手配し、届けてくれた事があります。後、もう少し足の筋力が戻れば、活動の幅も広がると思っています。

※（通常バッテリー1本あたりフル充電で2～3時間使用可能 / セット内にバッテリー4本含む）

Q 長く続けるポイントがありますか？

A 先ずは生きる事に希望を持ち、病気を治したいという強い気持ちが重要です。そうすると着けている事を忘れるくらい治療が日常になります。最初の6ヶ月から比べると体力も少しずつ戻り、外にも出ようと思いました。当初は買い物に行く事も躊躇していましたが、それでも頭にアレイを貼っている事が恥ずかしいと思った事はありません。妻：抗がん剤を使っていると免疫力が低下するため、感染症を引き起こさない様に注意し、体力や免疫力を付けるように栄養面の工夫や、病気に立ち向かう気持ちの部分がとても大切だと思います。

Forward



Q 休日の過ごし方を教えてください

A 何もせんとですよ（笑）。まあ、機器をリュックに背負い、庭の手入れや芝刈り、愛犬の散歩をしています。



Q 治療の協力者（奥様）にお聞きします：慣れるまでにどれくらいかかりましたか？

A 治療の説明を受けた時、機器とその周辺付属品を見て大変としました。アレイの貼り替えは1ヶ月くらいで慣れました。アラームが鳴りますが、治療開始時は慌てましたが、現在はある程度原因がわかるのでスムーズに対応出来ています。頭皮に直接貼り付けるため皮膚のトラブルとは向き合っていく必要があります。主人は可能な限り治療を続けたいため、アレイの貼り替え時に皮膚を休めたいのですが、一刻も早く貼り付けてほしいと言っています。



Q 今後、治療を開始される方の治療の協力者にアドバイスをお願いします

A 先の見えない治療であるため、大変な事もあると思います。ですが、治療を受けるチャンスがある方は始めた方がいいですね。タイミングもありますので。

治療においてアドバイスが3つあります。

1. 根気よく続けるため、ストレスを回避する方法を持つ
2. 治療では第3者（仲間）を持つ（二人で悩まない）
3. 他の人から力をもらう様な関係作りが重要

私は看護師ですので治療方法に対して抵抗は少ないですが、素人の方ではやはり慣れるまでは大変だと思います。治療を円滑に進めるには家族で乗り越えていく必要があります。苦しい事は抱え込むとモチベーションが下がってくるので、誰かに伝える事が出来れば救われます。これはチーム医療



ですね。本人の気持ちも大切です、主体的になる事で乗り越えていけると思います。仕事をしていれば、色んな人と接する事が出来、「以前と比べて、笑顔が出てますね」とか言って下さり、それがモチベーションになります。主人の治療が次の人も救えるかもしれませんし、私の経験も、今後治療を受ける方や治療の協力者に伝え、次の人への希望のバトンタッチが出来ればこんな嬉しいことはありません。

Q 今後の夢は？

A 今年は行けなかったですが、以前、息子が住んでいた町（米国イリノイ州）へ行ってみたいです。後、運営している訪問看護ステーション/居宅介護支援事業所を早く息子へ引継ぎを完了したいですね。そして夫婦でゆっくりとした時間が過ごせれば…。

Doctor's Comment

長崎大学病院 脳神経外科 助教授

氏福 健太 先生

原則、腫瘍腫の患者さんには全例、腫瘍治療電場療法についての説明をさせていただいています。希望される患者さんが現時点で少ないのが当院の現状ではありますが、しかし、初めて腫瘍治療電場療法を導入したY.S.さまは、チャンピオンケースといっているくらい治療がうまくいっております。個人的に、もともと腫瘍治療電場療法には懐疑的だったのですが、現時点では患者さんの希望に基づく前提を踏まえれば、推奨してもよい治療法の一つと位置付けています。

奥様の献身には頭が下がります。ご家族のご協力は、間違いなく腫瘍治療電場療法の使用時間率に影響を与える予後良好因子であると痛感しています。離島という悪条件にもかかわらず、メーカーの対応にも支障は生じておらず、この場をお借りして御礼申し上げます。